

教養コース ⑤ 社会保障学

— 社会保障の過去と未来を考える —

第1回

「福祉国家」とはなにか 世界史の中の社会保障



期日 令和4年6月18日（土）10:00～12:00
会場 鶴瀬公民館
講師: 畠中 亮氏（立正大学コミュニティー福祉学部准教授）
参加者 26名

第1回目は、「福祉国家」とはなにか、世界史の中の社会保障

1. 社会保障・福祉という言葉から

社会保障、福祉、福祉国家 これらの言葉と仕組みが生まれた経緯を世界史から見てみました。

「社会保障」はアメリカ生まれ、1935年アメリカで作られた社会保障法から使われ始めたと言われています。

しかし内容は欧州で作られた制度を真似したもので、医療保険制度は作られませんでした。



講師: 畠中 亮氏

「福祉国家」の始まり

福祉国家という言葉は20世紀初頭にイギリスに於いて使われ始めたと言われていました。

「福祉」の意味は

福祉は英語の welfare の訳語です。Welfare は物事がうまくゆく、良い方向に導くといった広い意味を持つ言葉で、中世の英語にも存在した言葉でした。

2. 福祉国家以前は

近代的な社会保障が生まれる以前のヨーロッパでは貧しい人、生活に困った人の救済は、村落の中での助け合いや、協会での慈善活動に頼っていました。

しかし、社会が混乱する中世後期になると助け合いや慈善活動だけでは救済できない人々があふれ始めました。

こうした問題に対処するため労働者条例、救貧法、魔女裁判が行われるようになりました。

産業革命と児童労働

18世紀後半から19世紀初めにイギリスでは水力や蒸気機関車の動力による機械が発明され産業革命が起こりました。

工場では人手不足のため救貧院の孤児も雇い入れ、劣悪な条件で働かせました。



3. 激動の時代と福祉

イギリスを中心に起こった産業革命は欧州諸国を発展させたが、一方で労働者と資本家の間で貧富の格差が拡大しました。

ドイツではビスマルクにより年金保険や労働保険の原型となる制度が作り出されました。

第1次世界大戦と社会保障

1914年から1918年迄続いた第1次世界大戦の中でロシア革命が occurred。革命後完全な社会保障制度の構築を公約しました。

ドイツでは、国民の最低限度の生活を保証する憲法が作られました。

第一次世界大戦後アメリカ産業が世界の頂点に立ちましたが、1929年10月29日のブラックチューズデーが起こり急激な経済の後退が始まりました。しかし、ルーズベルト大統領は、社会保障法を制定しました。

第2次世界大戦

アメリカは1941年第2次世界大戦開戦時に於いて、戦後の世界を構想する米英共同宣言（大西洋憲章）がイギリスとの間に交わされ、その中で世界の国々に社会補書の実現が呼びかけられていました。

戦後の福祉国家

福祉国家とは、大量の失業や貧困を未然に防止することで、社会を安定させ戦争や革命を回避する国家構想でした。

福祉国家構想は、欧州諸国にとどまらずアメリカや日本など先進諸国に今日共有されています。

